

一致団結し受注拡大

O&M研究会 通常総会 粕谷課長が講演

水道O&M研究会（藤田賢二会長、渡邊彰彦代表幹事）は6月19日、東京・白金台の八芳園で第7回通常総会を開催。水道施設の管理技術の向上に関わる調査研究を行うとした21年度事業計画案を含め、4議案を審議、了承した。

冒頭、藤田会長は「業界も厳しい状況にあるが、研究会で一致団結して、会員の受注につながるよう

ていきたい」と挨拶。

20年度は、技術委員会の運転管理マニュアルWGで、19年度から作成していた運転管理マニュアルを完成させるとともに、水団連の水道産業戦略会議の報告書「水道産業活性化プラン2008」の作成に協力。また、民間委託計画のある事業体などへの要望活動を

行った。

21年度は、運転管理マニュアルを対外機関などへ配布していくとともに、水団連「チーム水道産業・日本」のWGに参加して、「浄水管理関係：O&M公民連携に関する研究関」で調査・モデル事業などを検討する。要望活動は、個別の事業体ではなく県レベルの指導体に対して行うなど、方法を検討しながら引き続き実施していく。

総会終了後には講演会が行われ、厚生労働省の粕谷明博水道課長が「最近の水



需要拡大に向け連携を深めた



藤田会長



渡邊代表幹事



粕谷課長

道行政の課題と取り組み」をテーマに講演。厚生省がとりまとめた「第三者委託実施の手引き」「水道事業におけるPFI導入検討の

手引き」などを解説するとともに、作成中の「アセットマネジメントに関する手引き」を紹介した。

粕谷課長は「今は、量的な充足から質的な向上へシフトして、維持管理の重要性が増している。また、水道事業の持続可能な経営を確保するため、広域化と官民連携がキーワードになっ